

Citation: Qu HB, Dengfeng W, Wu T, Marjoribanks J, Ying S, Haijun J, Zhang J, Hu L. Chinese herbal medicine in the treatment of ectopic pregnancy. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2011, Issue 7. Art. No.: CD006224. DOI: 10.1002/14651858.CD006224.pub3.

CRG名: Cochrane Menstrual Disorders and Subfertility Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 29 November 2010

Clib issue No.; N/U: 2011 Issue 7 ; Update

背景: 伝統的な漢方薬(CHM)は、子宮外妊娠の治療に中国の病院で広く使用されてきた。その使用を支持する多数の研究が発表されているが、エビデンスについてシステマティック・レビューはまだ行われていない。これは2007年に発表されたレビューの更新である。

目的: 子宮外妊娠の治療における漢方薬の有効性及び安全性を検討すること。

検索戦略: 関連性のある試験について、コンピュータ化データベース[CENTRAL (コクラン・ライブラリ)、MEDLINE、EMBASE、Chinese Biomedical Database、China National Knowledge Infrastructure、VIP、Traditional Chinese Medicine Database System]をその開始から2010年11月まで検索した。

選択基準: 子宮外妊娠の治療に対する漢方薬の使用に関するランダム化比較試験(RCT)

データ収集と分析: 同定した研究の原著者に連絡を取り、試験デザインを検討し、確実なRCTを同定した。2名のレビューアがデータを抽出し解析した。

主な結果: 検索により281件の試験を同定した。計157例の参加者を有する2件の研究のみが確実なRCTであると確認された(Li 2004c; Zhao 2000年)。両研究は利益相反について高リスクで方法論的質が不良であり、介入を有利とするバイアスを有する可能性があった。結果から確実な結論には到達できなかった。統合結果では、CHMに西洋薬を追加の方がCHM単独に比べて有意に治療成功率が高かった(RR 1.33、95% CI 1.08~1.63)。CHMと西洋薬との併用をCHM単独と腹痛の消失時間について比較した場合も、西洋薬併用群の方が有利という結果であった(RR -2.09、95% CI -4.14~-0.04)。ヒト絨毛性ゴナドトロピン(ベータhCG)が正常に回復するまでに要する時間について、結果は一貫していなかった。1件の研究では、CHMと西洋薬との併用の方が西洋薬よりも有利であった(プラセボの有無を問わず)(MD -6.68、95% CI -11.49~-1.87)。CHMと西洋薬との併用をCHM単独と比較した場合、西洋薬との併用群の方が有効であった(MD -8.12、95% CI -10.89~-5.53)。

レビューアの結論: 子宮外妊娠の治療において漢方薬を検討している、適切なデザインの試験は認められなかった。ランダム化比較試験(RCT)によるエビデンスに基づくと、CHM製剤の臨床使用を支持することも否定することもできなかった。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日: 2011年11月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改訂版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。